

## 文化・芸術

### 「予感」

1973年、油彩・カンバス  
145.5cm×112.1cm

石井壬子夫 (1912～90年)

石井壬子夫は香川県高松市に生まれ、11歳で父の郷里・栃木県足利市に移り住みます。群馬県立桐生中学校を卒業した後、東京美術学校に入学。卒業後は、群馬県立桐生高等学校や栃木県立足利高等学校などで教壇に立ちました。画家になりたいという気持ちを強く抱き続け

ていた石井は58歳のとき、退職していた石井は58歳のとき、退職し武蔵野美術学園に入学。卒業後は足利、桐生で個展を開くなど、精力的に創作活動を行いました。

本作の中央で肘をつき、考え込む人物は石井自身です。一体どんな予感を感じているのでしょうか。大きく塗りつぶされた画面上部はとめどなく広がり続ける思考を表現しているかのようです。不安に押しつぶされそうになっているのでしょうか。しかしその目は何かをしっかりととらえています。

なお、展示替えのため大川美術館は1月17日まで全館休館しております。1月18日からは企画展「桐生のアーティスト2020」がはじまりますので、どうぞお楽しみに。

(池田)

### 名画の扉

大川美術館常設展示から

